



平尾修一

CVV(シビル・ベテランズ&ボランティアズ)
元大阪市立本田・南小学校長

少年時代に土木建築への関心を高めるための1つの試み

～教師への切込みを～

土木建築を目指す青年に、なぜこの道を選ぶようになったかについて尋ねてみた。彼は、次のように答えた。「小学生の時、小学生向けの雑誌の中に掲載されていた、『明石大橋』の写真を見て、橋の工事や姿などに感動したことだった」と。また、小学校教員採用テストでの面接者からは、教師を目指した動機として、「小学校の先生の言動」を挙げた受験者が多いと聞く。この例のように、人が将来の職業を選択するとき、小学校時代の先生との出会いや体験がもたれていることが多いと思われる。私が所属している CVV(シビル・ベテランズ・ボランティアーズ)のアドバイスグループでは、少しでも土木・建築に興味をもつ児童を増やしたいと考え、次のようなことを試みてきた。1つは、兵庫県内の小学生を対象に、「お箸で橋を作ろう」という土木のミニ体験イベントであり、もう1つは、大阪市立の小学校で「大阪を外国の人に紹介しよう」というテーマで、児童たちがグループに分かれ、CVV 数名が引率して

大阪市内の史跡・橋・構造物などを見学するという総合的学習の手伝いである。今年で4年目を迎えるが、後者の取組みは、もっと拡大したいと思っている。一方、前者の方は、教育委員会に依頼後、各学校を訪れ、児童数分のチラシを渡し、児童の参加をお願いしたが、集まった人数は、10人にも満たなかったのである。その原因としては、児童の事故等の心配や時間的制約があるが、なによりも教師の土木への興味・関心の薄さがあるのではないかと考える。したがって、この教師の課題を解決することが、児童の土木・建築への関心を高めることになるのである。その方策を挙げると、教師の夏期研修会において、防災教育の一環としての研修会の開催や、ミニアーチ橋づくりのような科学的かつ楽しみながら土木建築を体験する場の設定である。これにより、教師に、この研修会で知ったことや体験を、総合的学習に生かし、感動をもって子どもたちに伝えてもらえるのではないかと考える。